

法学部・国際インターンシップ・プログラム 「国際金融証券市場と法」

わが師の恩 ～途絶えぬ絆、いつまでも～



情報・システム研究機構
国立情報学研究所
事務職員 相沢啓文

1. はじめに

こんにちは！ 法学部政治学科
2009年度卒業生の相沢啓文と申
します。本稿では、私が2008年度に受
講した国際インターンシップ・プロ
グラム「国際金融証券市場と法」に
ついて、卒業後も続くOB・OGと
の交流や在学中にプログラムで経験
したことをご紹介しつつ、卒業後の
私の進路などについても記載させて
いただきます。

2. OB・OG懇親会

総合講座ⅠⅡ「国際金融証券市場
と法」は、2004年度から2008年度ま
で法学部に開設されていた国際イン
ターンシップ・プログラムですが、
私たち同プログラムの卒業生は、お
世話になった教職員の方々と交えて
2年に1度懇親会を開催していま
す。

私は、4回目となる今年3月の懇

親会の幹事を担当し、今回は13人の
卒業生、教職員が集まりました。同
プログラムのOB・OGの卒業年は
2005年～2011年。第1期の卒業生は、
はや社会人11年目を迎えています。

各自の分野での実務経験も豊富に
なりつつあり、近況報告を兼ねた自
己紹介では皆、自身が現在携わって
いる仕事のことをイキイキとした表

情で語っていたのが印象的でした。

同プログラムのOB・OG総勢81
人は現在、大手企業・官公庁・法律事
務所など(例えば、3大メガバンク、
野村証券、大和証券、電通、新日鉄住
金、日産自動車、農林中央金庫、日本
銀行、内閣府、西村あさひ法律事務
所など)多方面で活躍しています。



ことし3月の懇親会に集まった、OB・OGと教職員の面々。
前列左から雁金先生、角田元学長、山内先生、中列左端が楢崎先生、後列右端が筆者

3. 国際インターンシップ プログラム

さかのぼること8年前、私が受講したプログラムの紹介を簡単にさせていただきます。

国際インターンシップ・プログラム「国際金融証券市場と法」は、講座終了時に各々で選んだテーマの研究レポートを書き上げることを前提に、①前期は大和証券グループの方々を講師として招いた講義形式の授業②夏期には国内外の実地研修（国内研修先は大和証券本店、JFEスチール、東京証券取引所など。海外研修先は香港、シンガポールで、大和証券グループの現地法人・HSBC・The Singapore Management University・Keppelなど）③後期は、レポート作成に向けて受講生が持ち回りで進捗状況を発表、というカリキュラムでした。

前期の授業や研修先で講義をしてくださった方々は、今思えば普段到底お話しすることのできないエグゼクティブばかりでした。

こうした講師陣や研修先をコーディネートしていただいた国際企業

関係法学科の山内惟介先生、榎崎みどり先生、元大和総研専務の雁金利男先生をはじめ、多くの中央大学教職員の方々には、今でも感謝の念に堪えません。

4. プログラムの思い出

私は学部3年の時、6号館の掲示板にあった国際インターンシップの募集を偶然見かけたのがきっかけで、同プログラムに応募しました。

応募したといっても受講するには書類選考と面接があり、もともと部活さんま三昧（体育同好会連盟居合道部）で勉強らしい勉強をしておこなった私は、書類選考で落とされるだろうと思っていました。

しかも募集を見かけたのは締め切り当日の受付終了2時間前だったため、即興で志望理由を考えた上に、あまりの時間のなさに（手書き指定にもかかわらず）記入項目の一部をPCで入力・印刷して貼り付けて提出しました。

それが何の冗談か書類選考を通していただき、次の面接でも山内先生からあなたをPRしてください「あ

なたはこの講座にどんな貢献ができますか？」と言われた際、「全く勉強しておこなったので、勉強以外で貢献します！」「とにかく明るく頑張ります！」という悪い体育会系学生丸出しの発言をしたにも関わらず、受講者名簿に載せていただきました。

なぜあの面接が通ったのかずっとわからなかったのですが、今回の懇親会で山内先生に聞いたところ、「他の履修生にはない個性があり、面白かったから」だそうです。学生の皆さんも今後就職活動で面接などがあると思いますが、一見採用されるのが難しいような企業でもダメ元でチャレンジしてみる価値はあるのではないのでしょうか。

実際に講義が始まってから1年間の思い出は数知れませんが、やはり一番印象に残っているのは実地研修です。

国内研修は大和証券本社の業務フロアを見学して複数台のディスプレイで取引状況をウォッチする現場を見せていただき、JFEスチールの製鉄所ではドロドロに溶けた鉄が巨大な鉄板になっていく過程に感動しました。

海外研修では、下水を飲用水化するシンガポールの国営企業「Keppel」の工場見学の後、同国の水自給率の低さから国を挙げて水の確保に取り組んでいるという講義とともに、実際に再生水「NEWater」を飲んだのが印象的でした。

前述のようにOB・OGが多面で活躍しているのも、本人たちの努力もさることながら、こうした目で見て感じた経験が血肉となっているのではないかと強く思います。



学生時代、多くの時間を占めた居合道。写真は部内戦の一コマ

5. 私の現在の仕事について

私は、国立研究所職員という他の卒業生とは少し違った進路を選びました。次に、現在の私とかつての私のお話にお付き合いいただければと思います。

私は、現在、国立情報学研究所(通称、エヌアイアイ N I I)という文部科学省所管の研究所で働いています。

N I Iは情報学の研究と全国の大学・研究機関向けのサービスを提供する研究所で、主なミッションは、①人工知能やビックデータなど情報学に関わる研究の推進②国内外の研究機関など800機関以上が接続する大規模学術ネットワークS I N E T(サイネット)の運用③大学図書館の蔵書・論文検索システムC i N i i(サイニイ)等のコンテンツサービスの運用—の3点です。

特にS I N E Tは、大学間や大学から遠く離れた研究施設を大容量のデータ転送が可能な専用回線ではないため、大量の観測データを扱う天文学や、大型加速器を用いる素粒子物理学、スーパーコンピュータを用いたシミュレーション科学などの研究活動に不可欠なI Tインフラとなっています。

例えば、2015年にノーベル物理学賞を受賞された東京大学・梶田隆章先生の研究グループは、岐阜の研究施設(スーパーカミオカンデ)とのデータの送受信にS I N E Tを活用していますし、スーパーコンピュータ「京」もS I N E Tに接続しています。

そんな研究所の事務職員である私

は、これまでに給与、広報、S I N E T運用チームの研究者・技術者のサポート(学会・研究会の出欠とりまとめ、委員会の手配、国内外の出張手続など)などを担当しました。N I Iには外国人の研究者や学生が多く在籍しており、彼らと英語でコミュニケーションをとる機会があります。

2013年には研究者に同行して英国出張も経験しました。いずれの場でも外国人の方と抵抗なく(下手な)英語でコミュニケーションができるのは、学生時代の海外研修の経験のおかげだと思います。

今年4月からは、行政実務研修生として文部科学省に出向し、委員会の手配や全国の国公私立大学向け調査のとりまとめなどを行っています。

プライベートでは3年前から少林寺拳法を始め、週2回練習をするのと同時に、少林寺拳法の道場の人たちと年1回、陸前高田市でボランティアを行っています。

6. 現職にいたるまでの経緯

私が現在の仕事を選んだのは、決して順風満帆な就職活動の結果ではありませんでした。学生時代の自分は全く自分のキャリアについて意識ができず、あろうことか大学3、4年になっても就職活動をせず部活に打ち込み、就職活動を始めたのは既卒になってからでした。

しかも当時はリーマンショック直後の超売り手市場で、既卒学生に良い就職先などあるはずもなく、名古

屋の社員7人の小さなシステムコンサルの会社に就職するのがやっどでした。

その後、紆余曲折を経て帰京し、2011年に公務員試験を受けて現在所属する研究所に転職しました。

思い返せば就職活動をせず卒業するなんて馬鹿なことをしたとあきれてしまいますが、こうした経験は今の自分への反面教師として生きていきます。

就職活動を控えた皆さま、十分ご存知かと思いますが、新卒の就職活動はとても大事です。くれぐれも就職先を決めずに卒業するなどせずに、大学生活の早いうちから自らのキャリアプランを考えて行動することをお勧めします。

7. 大学時代を振り返って

大学時代を振り返ってみて、部活ともども一番思い出深く、今の自分につながっていると思えるのは、このインターンシップ・プログラムでの日々だと思います。

何が良かったかという点、①今でも刺激をもらえる友達ができただけでなく②自身の人生のなかに、常に海外への意識が芽生えたこと③こうした経験、友人関係を与えてくれた大学や先生方に、何かしら貢献して恩を返さなければという報恩の意識が芽生えたこと(雁金先生のいう「愛校心」)です。

同プログラムで得た友達や海外への意識は今の人生の確かな一助になっています(友達が活躍しているので自分も向上心を忘れないでいら

れる、職場の外国人研究者・学生に積極的に話しかけられるなど。

山内先生、雁金先生、檜崎先生という、魅力あふれる素晴らしい教授・大先輩が与えてくれたあの時間を、いつでも忘れず、いつか自分の後輩たちに向けて返していきたいと思えます。

8. 最後に

本稿を書かせていただくにあたり、学生時代に使っていたUSBを掘り起こして当時の資料データを見まわしていたところ、講座開始前に共有された、受講生各々の自己紹介文のWordファイルが出てきました。

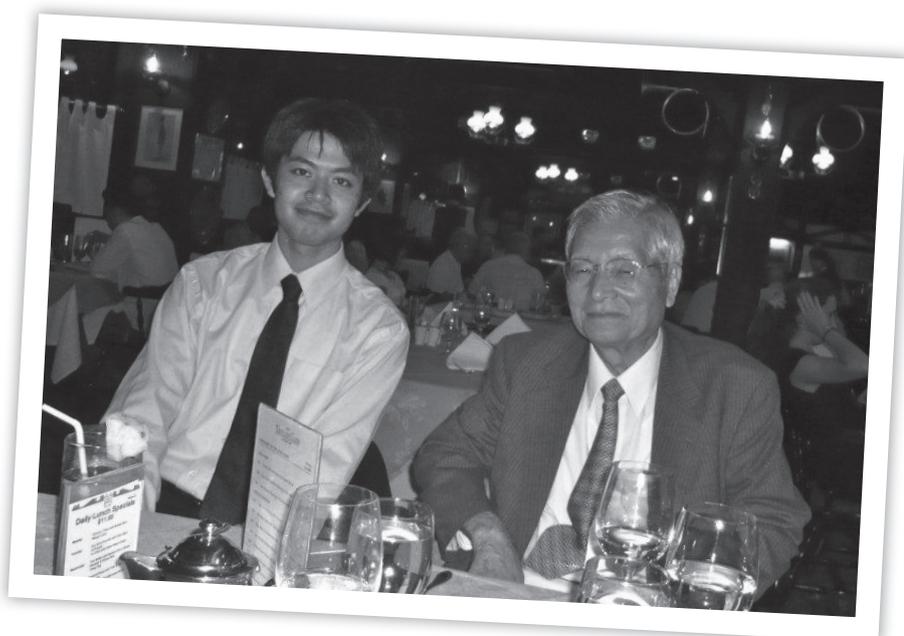
その中で、私の自己紹介文を見ると、「このインターンを通して1年

といわず卒業後もずっと続くような関係を築けたら良いなと思っています」と書いてありました。

8年前、20代前半の時に書いたこの願いは、30歳を迎えた今、卒業年次を越えたOB・OG同士の交流という、思っていたよりもずっと素敵な形で実現しています。

学生の皆さま、今過ごしている時間は、30歳のあなたにつながっています。そして、30歳になった自分が学生時代に経験しておいてよかったと感謝する授業・ゼミ・プログラム等を、中央大学は用意してくれています。

将来の自分のために、大学から発信される様々な情報を積極的に取りに行き、私にとっての「国際金融証券市場と法」のような出会いに巡り合っていただけだと思います。



雁金先生と記念の2ショット。左が筆者

本誌記事を英文にして、世界へ発信中

Hakumon Chuo・英語記事のページには、下記の手順で進んでください

- ①中大公式ページ（日本語）を開く
<http://www.chuo-u.ac.jp/>
- ②右側にある ChuoOnline のバナーをクリック
- ③ ChuoOnline のページへ
<http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/research/20151112.html>
- ④右上 English をクリック
- ⑤ ChuoOnline の英語サイトへ
<http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/dy/>
- ⑥右の目次から HakumonChuo をクリック
- ⑦ Hakumon Chuo 英語ページへ
<http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/dy/hakumon/>

HakumonChuo 英語記事掲載ページの見かた

- ①中大公式ページから ChuoOnline をクリック



- ② ChuoOnline のページから English をクリック



- ③ ChuoOnline 英語ページから HakumonChuo をクリック



- ④ HakumonChuo 英語の記事はこちらからご覧いただけます。ブックマークに追加していただくと、次回から楽に開けます。



最新号の英訳記事